

支援活動と Communication やまなしライフサポート理事長 中山八十司

コミュニケーションとは、口頭、文書、合図等により互に意志の疎通をはかることを意味する。

「あの人とは普通のコミュニケーションが取れない」、「異文化間のコミュニケーションは難しい」、「お店の売り上げはお客さんとのコミュニケーションにかかっている」。日常生活の中で最近頻繁に使われる外来語の一つであるが、それが意味することがらは非常に難しい。身近な家庭での問題から隣国との外交問題までこれがその解決の鍵になっていることは間違いない。また、私たちやまなしライフサポートの支援活動においても同様である。

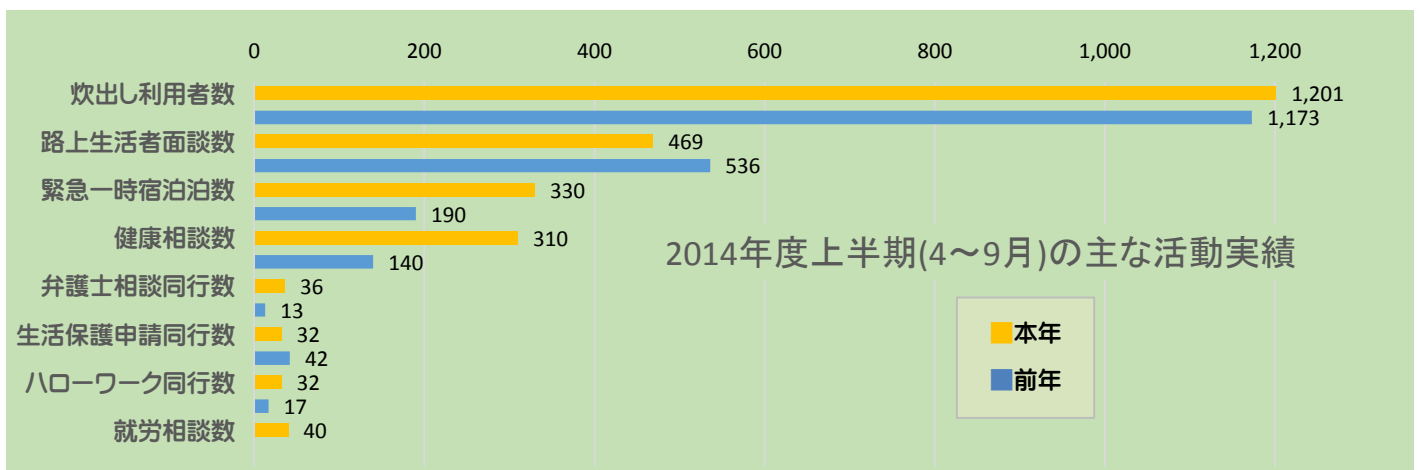
毎月第四日曜日に行われている、ボランティアによる定例見守りパトロールに初めて参加される方々には、公園や橋の下で路上生活をしている方と対話する時の注意点をいくつか話させて頂いている。「取り囲んで、二人以上の方が一度に質問しない」、「その方と同じ目線、座っている人には座って話す」、「支援をおしつけしないで、させて頂く」。コミュニケーションの基本に則った作法がパトロールには欠かせない。

約4年間の交流と支援をさせて頂いたK氏(67才)が、去る8月12日に住みなれた橋の下の小屋の近くでお亡くなりになった。彼は読書家で理論家、物静かな頑固者で、支援を受け入れ本名と生年月日を教えてくれるのに1年かかった。脳梗塞を患っていると言いながら、低額無料医療の説明を理解してもらい、病院にお連れするのに2年半かかった。勿論、その間何度となく生活保護の申請を

促したが強く拒否し続けた。死亡後、警察からの連絡で当NPOを訪問して下さい、K氏のお兄さん夫妻と妹さんは、K氏が生前京都の三味線工房で働く腕のいい職人であったこと、幼少時代から人の世話になるのを嫌う性格であったこと等、話して下さい。

毎週1度はスタッフによる集中パトロールも行っている。いろいろな方達から寄せられた情報に基づきそのスポットに駆けつける。大きな袋をいくつもかかえた女性や、夏でも冬のコート着て路上に座っている男性にライフサポートの支援パンフレット持って近づいていく。すると、「こんなもんいらんよ、おらあそこにあるだよ。ごろうさん」。また、真夏の暑い日には、スポーツ飲料を持って、生活保護や年金で一人暮らしをなさっているご老人を訪問し、熱中症予防の声かけをする。よりよいコミュニケーションの輪が広がることを願いつつ。

“以心伝心”などという関係は身内同士といえども現実味の無い理想かもしれない。しかし、炊き出し、弁当配布、ふれあいサロン、巡回健康相談、これからメインになる相談支援事業等、ライフサポートの支援活動においてコミュニケーション能力は欠かせない資質である。この問題を乗り越え少しでも分かり合える関係を築いていかなければ、路上生活者や貧困の問題を抱えている方々に対する我々の支援活動は実を結ばない。



就労相談を始めました

2013年5月より炊出し会場にて就労相談コーナーを設け、生活保護受給者や失業者のための相談を行っています。

生活保護受給者が働いた場合、月収入が15,000円以下なら扶助費を減額されないことなどを説明するチラシ(右)を作成し、少しずつ働く意欲を高めながらハローワークへの紹介、面接の受け方や履歴書作成等のアドバイス等を行っています。

また障害をお持ちの方には、企業の障害者雇用枠の説明を行い、無理のない就労に結びつけられるよう助言しています。

一方、仕事と住居を共に失った方には、寮付きの職場の情報を提供し早期自立に向けた支援をしています。

5月から9月までの相談件数は40件で、就労経験や健康状態、希望職種等を確認し、ハローワーク等に紹介し6名が就労に結び付きました。内訳は建築・土木関係4名、介護関係1名、障害者作業所1名となっています。

ライフ荘状況

緊急一時宿泊施設は5月より1室増設して4室となり、緊急時対応力を強化しています。

利用者状況(前半期の一例)

利用月	年齢 性別	宿泊数	状況
5月	56歳 男性	11泊	薬物依存症で矯正施設出所者。生活保護受給後、他地域の依存症回復施設へ送り出す。
6月	47歳 男性	7泊	矯正施設出所者でK市福祉課からの依頼。体調悪かったため病院受診支援。生活保護申請、アパート探し、新居への生活用品の提供等を支援。
7月	56歳 男性	7泊	弁護士と共にK市役所に生活保護申請。住所移転のため他市から戸籍謄本取り寄せ、アパート探し、新居への生活用品の提供等を支援。
8月	34歳 男性	8泊	離婚と失業で住居を失い、うつ病にも罹患。生活保護申請、精神科通院、アパート探し、新居への生活用品提供を支援。
9月	64歳 男性	9泊	病気で仕事ができなくなり、借金もあったため家賃が払えず野宿していると社協より相談あり。生活保護申請とアパート探し及び、債務整理(自己破産)手続きを支援。

利用者の声

【Mさん 男性・42歳】

自分で事業をしていましたが失敗し、自殺を考えて青木ヶ原樹海まで行きました。そこで何人かそれらしき人を見かけ、死んでは駄目だ、一から出直そうと決心しました。甲府に戻りましたが、持病が悪化し救急搬送された病院の紹介で甲府市役所に行き、ライフサポートにつながりました。

ライフ荘での住まいと食事、生活保護申請手続き、また就職のお世話まで、私の人生42年間の中で最大の危機をライフサポートの皆様に助けていただきました。こんな私を心から心配し

面倒をみてもらい本当に助かりました。ライフサポートがなければ今の私はありません。今まで生きて中でこれだけ人の心のありがたさを感じたことはありませんでした。

現在は、福島県で環境の除染作業をしており、少しでも人の役にたてるよう頑張っている。これからも感謝の気持ちを大切に、いつか皆様に恩返しできる日が来るように毎日働いていきます。

巡回訪問看護師より

お盆の8月14日、携帯電話が鳴った。ライフサポートのスタッフからだった。「一宮町の橋の下の小屋のKさんが亡くなりました」と。「えっ！」驚きのその一言しか出なかった。電話を切ってから、「自殺?」、「病気?」、「事故?」、どうしたんだろうと、最後に会った瞬間が鮮明に思い出された。

1週間前の木曜日午前、いつものように小屋から出て待っていてくれたKさん。早速血圧測定(204/99mmHg)、「今日は下が100以下でいいね、脳梗塞の後遺症の手の痺れはあるけど体調は変わりないですよ。」などと話し、最後に前回要望のあった文庫本3冊(森鷗外、海音寺潮五郎)を渡した。すると、別れ際に「来週は宮坂さん、来るの?」と聞いてきたので、「来週はおにぎり配達だけなので私は来ません。」と答えたのが最後の会話だった。そんなKさん

が誰にも看取られずに亡くなり、ライフサポートのスタッフが8月14日巡回の際に第1発見者となった。

前号にも書きましたが、Kさんは自分の運命を受け入れ、心穏やかに規則正しい生活を送っていました。私が巡回を重ねる毎に打ち解けていくのが伝わってきて、近所のおじさんに会いに行くという感じで、看護師と言う立場から一支援者になっていきました。会うのを楽しみに感じてきていた今日この頃でした。ご冥福をお祈りします。

さて、毎週木曜日の午後はカトリック教会の炊出しで健康相談の仕事をしています。とは言っても、冗談を言い合い、楽しく、時には厳しく(?)健康や生活全般について話しをしています。毎回10人前後の相談を受けています。これからもよろしくお願いします。(宮坂菊代)

チャリティコンサートを開催しました

7月19日(土)、カトリック甲府教会講堂にて、ヴァイオリン、チェロ、ピアノから成るトリオ「トリオメット」によるチャリティコンサートを開催しました。この企画は、ヴァイオリン担当で甲斐市出身のマヤ・フレーザーさんのお申し出により実現したものです。

コンサート会場は一般の音楽用ホールではなく、やまなしライフサポートの活動の原点で4年前に炊出しを開始した、教会の講堂を敢えて選びました。

コンサートには150名が来場され、「トロイメライ」、「チャルダシュ」等のクラシック曲や、「ニューシネマパラダイス」、「ディズニーメドレー」等のポピュラー曲を楽しみました。

収益金は143,450円で、当NPOの活動資金として大切・有効に使わせていただきます。



パーソナルサポーター養成講座を開催します

テーマ『生活困窮者自立支援モデル事業への取組み』

2015年4月より、生活困窮者自立支援法が施行されます。

このモデル事業として2013年度より神奈川県から業務委託され、相談支援活動(相談→支援計画作成→地域連携したサポート)で先駆的な取り組みを行っている、インクルージョンネットよこはまの事例を紹介します。

講演者 高沢幸男氏

一般社団法人インクルージョンネットよこはま代表理事
寿支援者交流会事務局長

日時 2014年11月2日(日) 13:30開場 14:00開演
会場 ぴゅあ総合(甲府市朝気1-2-2 無料駐車場あり)
参加料 無料



看護学生が炊出しに参加

7月31日(木)、共立病院の看護奨学生12名が奨学生活動の一環として、炊出しにボランティア参加しました。調理、配食、片付けの手伝いと、看護師による健康相談の見学を行いました。

【学生の感想】

思っていた以上に多くの食材が集まっていたり、多くのボランティアがいたりして驚いた。生活困窮者やホームレスという、もっと元気がないのではと思っていたがそのイメージとは違って。しかし、本当に橋の下や公園で生活している人はここには来られないため、そう感じたのだと思う。そのような人には弁当の配達や、見回りで声掛けをしている。
ここに来られる方は、ごはんを食べたいという思いだけでなく、人と話したり血圧を測ってもらい利点もあり、とても大切な場であると感じた。

今まで、甲府にホームレスの人や炊出しを必要としている人がいることを知らなかった。
身近に生活に困っていたり、生活保護を受けている人がいるということは、自分たちが何気なく生活していると気が付くこともないのかなと感じた。実際にボランティアを毎週行いそういう人を支援する人がいること、そして継続していることがすごいなあと思った。



食器を片付ける参加者

甲府に貧困で生活に困っている人がいるということを知ることができました。加齢や口腔衛生が悪い影響で歯を失っている人が多いことも知ることができました。炊出しも必要ですが、口腔ケアの啓蒙活動もしていかなければいけないのかなと考えました。

物品のご寄付を募っています

路上生活をされていた方がアパートでの生活を始めるにあたり、様々な生活用品が必要になります。多くのご寄付をいただいておりますが、現在右記の物品が特に必要です。ご連絡いただきましたら当方より受け取りに伺いますのでよろしくお願いいたします。

小型冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ
小型テレビ、電気炊飯器、
電気ポット、自転車

ボランティアさん募集

当 NPO の活動に協力していただけるボランティアを募集しています。詳細につきましてはお気軽にお問合せください。

1. 炊出しボランティア

- ・毎週木曜日 午後 2 時～5 時(一部でも可)、甲府カトリック教会にて
- ・調理、配食、片付け等のお手伝いをさせていただきます。

2. 見守りパトロール

- ・毎月第 4 日曜日 午後 2 時～4 時 30 分頃 甲府カトリック教会集合
(8 月、12 月は夜間パトロールとなります)
- ・数グループに分かれ、甲府市と周辺部をパトロールし、路上生活者の発見や安否確認をします。

会員募集中です

やまなしライフサポートの活動を資金面で支えてくださる方を募集しています。

	年会費
会員(当団体を支援し活動に参加して下さる方。総会での議決権有り)	個人 3,000 円 団体 5,000 円
賛助会員(当団体の活動を応援して下さる方)	個人 3,000 円 団体 5,000 円

入会申込書は、やまなしライフサポートのホームページ(<http://www6.nns.ne.jp/~yls/information.html>)からダウンロードすることができます。また、お電話いただければ郵送させていただきます。